

中国テレビアニメの国籍偽装問題

海外作品輸入と国産化の矛盾

要旨

氏名：李宗軒

中国テレビアニメの中には、実際は海外アニメであるという事実を隠して、中国国内で中国国産アニメとして放映され、視聴者にも中国国産アニメであると認識されていた作品が存在している。

本研究では、中国テレビアニメの中における国籍偽装されたアニメを対象として、その偽装の顛末を究明すべく、作品の元のタイトルや生産国を調べ、新聞報道などの記録を参考にしてアニメが輸入された経緯や当時これらのアニメがどう認知されていたかについて調査した。調査を通じて国籍偽装の実態を把握し、中国でそうした事件が起きた原因を考察すること目的の一つである。また、本研究は中国テレビアニメの歴史という大きなテーマの中の一部として、その海外との交流の側面を明らかにしようという意図の下に行われたものでもある。

先行研究を確認する中で、海外アニメの輸入の際にアニメの元の国籍を隠蔽する、もしくはアニメの原産国の情報を公開しないなどの状況は、中国以前にもアメリカや韓国でも類似事例が見られることが分かった。それらの事例が起きた原因は、中国と同じような側面もあれば、異なる面もあった。アメリカや韓国とは社会背景や時代背景などの違いがあり、その相違点を明らかにして整理することが必要であった。

その社会背景や時代背景の分析をするため、1994年以降の中国における海外アニメ輸入に関する法律・法令をはじめとして、国籍偽装の疑いのあるアニメ

に関する公式記録なども参照し、国籍偽装が起きた原因を考察した。その結果、中国政府の対外政策により海外コンテンツが制限を受けるという大きな枠組みの中で、海外アニメと中国国産アニメが対立する状況が生まれ、中国のコンテンツ産業の対外交流促進と中国国産アニメ産業の保護・育成という相矛盾するような局面が出現していたことが分かった。これらの対立や矛盾の中で起きた事件の一つとして、海外アニメを中国国産アニメとして国籍偽装するということが起こっていた。中国ではアニメを海外と共同制作することに関する定義が曖昧であることも手伝って、共同制作や出資の事実をもって国産アニメと強弁しやすい状況があり、海外アニメの制限政策の中で、国籍偽装をして国産と称することで中国国内での放映を可能にしようという、営利上の判断が働いた面もあった。

本研究では、中国政府の海外アニメに対する政策の分析や、今までの中国官民の海外コンテンツに対する見方についても言及している。こうした情報が、今後の日本と中国のコンテンツ・ビジネスのための参考となればとも考えている。